

# 夏の高校野球パーフェクトガイド2018

## 地区勢力ピラミッド

### 第1グループ

北照 北海 駒大苫小牧

### 第2グループ

札幌大谷 札幌日大  
東海大札幌 札幌第一

### 第3グループ

函館工 函大有斗 北海道栄  
北海道大谷室蘭 立命館慶祥

### 第4グループ

知内 苫小牧中央  
北星学園大付 札幌国際情報  
札幌新川 札幌創成  
札幌静修 北広島

## 秋季大会

函館工(南)	3
北海道栄(南)	8
稚内大谷(北)	0
旭川実(北)	2
立命館慶祥(南)	3
駒大苫小牧(南)	5
札幌日大(南)	12
旭川龍谷(北)	6

優勝II駒大苫小牧(南)

## 春季大会

札幌日大(南)	9
北海(南)	1
北照(南)	2
クラーク記念国際(北)	0
旭川実(北)	8
札幌第一(南)	10
士別翔雲(北)	3
北海道大谷室蘭(南)	6

優勝II札幌第一(南)

## 大会展望

### 「夏の北海」100回大会で39度目虎視眈々

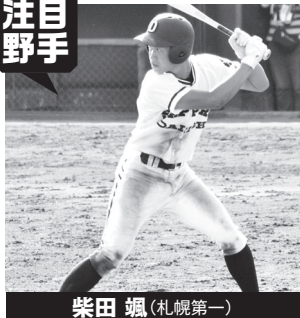
好選手が分散し、大混戦が予想される。その中で夏に強さを見せてきた北海が、戦後初の4連覇を視界に捉える。センバツ出場の駒大苫小牧は夏に合わせられるか。北照は力のある投手を揃え、まとまりでは道内屈指だ。実力校が揃う札幌勢はノーシードの札幌大谷に注目したい。選手個々の能力の高さは群を抜き、本来ならダントツの本命候補。粗さを解消したいところ。総合力の札幌日大、打力の東海大札幌、春を制した札幌第一、立命館慶祥と好チームが目白押しだ。

## がんばろう、小樽!

南北海道大会は支部大会を制した16校で行われる。各支部の代表枠は前年度の参加チーム数などにより配分され、昨夏から小樽支部の枠は1つ減り、代表は1校に。北照という絶対王者が君臨する小樽支部の球児たちには気の毒な夏になった。今季は支部校も必死に部員を集めて単独出場するなど春は10校が出場。夏も10校で1代表(札幌は6~7校で1代表)を争う道内最激戦地区という皮肉な状況になりそうだ。来夏の2代表復活を願っている。「がんばろう、小樽」。

してチームをまとめていく。1年春から経験を重ねた新出篤史(函大有斗)は、その圧倒的な雰囲気だけでも必見だ。もちろん強肩にキャプテンシも魅力だが、1年時の豪快なバッティングの再現を期待したい。三浦響(北照)はスピードが魅力の2番打者として献身的なプレーが光る。中屋諒(東海大札幌)は部員119人の大所帯を牽引する主将だ。

## 注目選手



柴田 颯 (札幌第一)

内野手では浅井佑太(函大有斗)、金澤勇士(札幌大谷)、辻本倫太郎(北海2年)の左打者がス

外野手も好打者タイプが多い。その中で期待したいのが白田悠祐(駒大苫小牧)。昨秋の優勝以降「取り組みが変わった」(佐々木孝介監督)ことで、オフシーズンに成長し、50メートル6秒1の足を生かした俊足強打の1番打者として楽しんだ。長打力なら西田健人(函大有斗)、唐川治也(東海大札幌)の実績のある左打者に、疋田雅暉、石鳥亮(2年)の札幌大谷が誇る右打者コンビに注目だ。

リードある攻守で光を放つ。特に浅井は169センチと小柄だが、サク越えの魅力があり、道内屈指の内野手に成長した。右打者は広角に打てる舞原陽和(駒大苫小牧)、パワーなら白川航也(東海大札幌2年)に期待したい。

北海道・東北

関東

北信越

東海

近畿

中国

四国

九州沖縄